

10年目の『眠り姫』は新しくなっていて目を覚ます



2007年11月の初公開からアンコール上映を繰り返す度にリピーターが続出。伝説のインディペンデント映画が上映活動10年目の節目にSDDSサラウンド&HDデジタルリマスター化！さらに進化/深化した音響と映像によって、さらなる映画の地平へと到達する。

人が姿を見せない。

からつぽの風景に、濃密な人の気配と声だけがさざめく映画。記憶の奥深くまで語りかけてくる、この奇妙な世界に入り込む、いつしか人の孤独な心だけが見えてくる。

中学校の非常勤講師をしている青地(つぐみ)は、この学校へ行くのがおっくうで、いくら寝ても寝不足の感じが抜けない。繰り返して見続けるのは、記憶とも妄想ともつかぬ奇妙な夢。面長の同僚教師・野口(西島秀俊)は、自分の顔のことは棚上げ、青地の顔がだんだん膨らんでいると笑う。トイレに貼った猫の写真は、



見るたびに何か言いたげだ。そこはかとない現実への違和感。やがて青地の中で、意識と無意識の境界線が消えていく...



●『眠り姫』に張りつめている空気は、良質な静物画のそれに似ている。シリーズトワットは18世紀フランスの画家シャルダンの静物画を評して、ただのリンゴや水差しが人を感動させるのはそこにつきさつきまで人がいたことを思わせるからであり、それによって、私たち人間がいずれ死めぬ身であることを思わせるからだ、と書いている。

黒沢 清

映画監督

●一見、重要なものは何も映っていないかに見えて、実は全部が重要かもしれない。ある種のでたらめさ、詰め込んだ感じが見ていてワクワクし、気配が複雑な感情を呼び覚ます...ゴダールに似ている。

●様々な常識を飛び越え、時間の感覚さえ奪われてしまう映画。それでいてリアルであるという矛盾。とてもリアルな夢がそうであるように、いつか映画として観たということを忘れ、自分が体験したことのように思い込んでしまう日が来るんじゃないかと、自分のことが少し怖くなる。

束芋

現代美術アーティスト

●なぜ眠る女が魅力的なのか映像を通して教えられたように感じる。その女はよく眠る。眠る女が発するのは夢がはらむ心地よめまいだ。だから人をひきつける。うまくつかめないもどかしさが、だからこそ、魅力になる。

柴田元幸

アメリカ文学研究者、翻訳家、東京大学特任教授

なぜ人はこの映画に惹かれるのか？

無限／夢幻の旅

●思えばこの作品から現在も続く七里圭の長い長い旅は始まったのだった。映画とは何か。この問いはこれまで無数のひとびとによって何度となく発されてきたし、その答え方も数限りなく存在している。そしてこの問いには唯一無二の正答などないし、だから誤答だってありはしない。しかし七里は、それでもあらためて、他の誰とも異なる仕方、この問いを自ら問い直してみようと思ったのではないか。そのために眠り姫は召喚された。七里はまず、映画から彼女の、そして彼女以外のすべての人間どもも、そこに、ここにいる。声と影と気配が、ここに、そこにある。それはなまなましく、なまめかしい。登場人物の形象という要素を欠落させつつ、それでもなお、この映画は映画としての正体を絶えず露わにし続ける。眠り姫に誘われて、七里圭とともにわれわれもまた、無限／夢幻の旅へと出立し、まだその途中にいるのだ。

佐々木敦

批評家

- 『眠り姫』に写し出されるのは、ありふれた日常の、ありえない光景。登場人物の濃密な気配は、すがるが、声だけが響く、恐ろしいほど美しい心象風景が、人を写す以上に人の孤独を、情感を浮き彫りにする。
- 監督は『DUBHOUSE 物質試行 52』(2012年)以来、国際映画祭でラヴリーや現在進行中の『音からつぽの映画プロジェクト』など、新しい映画の可能性に挑戦し続けている異才・七里圭。原作は孤高の漫画家・山本直樹の同名漫画『眠り姫』。その原典は、芥川龍之介の死や幻聴をモチーフにした内田百閒の奇妙な短編小説『山高帽子』である。
- 声 つぐみ
- 山本秀俊
- 西島浩司
- 大友三郎
- 榎本由希
- 園部貴一
- 張替小百合
- 五十嵐有紗
- 坂巻尚子
- 北田弥恵子
- 横山美智代
- 新妻未成
- 坂東千紗
- 斉藤唯
- 監督 脚本 撮影 七里圭
- 原作 山本直樹
- 企画 越川道夫
- プロデューサー 柳沢努
- 脚本 小林勉
- 撮影 高橋哲也
- 録音 小林徹哉
- 音楽 高橋秀実
- 美術 岡瀬嘉彦
- 衣装 三木木久城
- 監製 横田智昭
- 製作 高橋正敏
- 制作 小林勉

11.5より [2.2迄] 4週間限定公開! 特別鑑賞券 ¥1,200 (税込) 発売中 当日一般・学生 ¥1,500 / シニア ¥1,000

1・2週目: 11.5(土) - 11.18(金) 17:00 | 19:00 (2回上映)
3・4週目: 11.19(土) - 12.2(土) 21:00 (1回上映)

各種トークショーを予定しています。詳細は「眠り姫」HP、七里圭公式HP等をご参照下さい。

★長年アンコール上映を繰り返してきた本作ですが、10年目を区切りとした今回の4週間にわたる特別上映をもって、今後しばらく東京では上映致しません。是非この機会をお見逃しなく。

新宿K's cinema 新宿駅東南口階段下ル甲州街道沿ドコモショップ左入
Tel.03-3352-2471 www.ks-cinema.com/

ルミネ EST	ビックロ	ライオン	大塚家具
FLAGS	K's cinema	ドコモ	

甲州街道